

議事要旨

令和6年度 第2回清瀬市男女共同参画センター運営委員会 議事録

日 時：令和7年3月19日（水） 午後2時～午後4時

会 場：男女共同参画センター 会議室1・2

出席者：齊藤委員長 大森委員 前出委員 松本（宏）委員 松本（な）委員 宮沢委員
植田委員

欠席者：池田委員 井澤委員 中村委員 渡辺委員

事務局：地域振興部男女共同参画センター

1 令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画について

◆男女共同参画センターのからの各種情報提供について

○委員からの意見

・広報については、国や東京都等からの男女共同参画に関わる広報物（チラシやポスター等）をセンター内に掲示し、情報を発信しているが、若い世代へのアプローチとして SNS の長所を活かした情報の発信をしていけると良い。

◆講座について

○委員からの意見

・講座については、ターゲット層がどれくらい参加したか、内容にズレがあるかどうかなどを確認できると良い。また運営員会での事業報告時にも、これらの情報を含めると良い。
・インターネットを用いた情報提供が、どの程度目的（中心ターゲット層への情報発信とその後の継続参加）を達成できたかも評価して、次回の企画に反映させると良い。

◆男女共同参画に関わる図書について

○委員からの意見

・男女共同参画センターには男女共同参画に関わる図書が揃えられているが、他市と比べて清瀬市の図書館には、それら資料が少ないように見える。
・ジェンダーに関する専門書は高価だが、良本を選んで購入する図書を検討すると良い。

◆若い世代の男女共同参画センターへの参加について

○委員からの意見

- ・30周年を節目として、未来に向けてセンター機能を振り返り、重要性・必要性・意義を確認するようなことができると良い。
- ・若い世代にとっては、集まって話し合う方法だけでなく、対面以外の方法で意見交換ができる交流の場があると良い。
- ・市民が参画し、センターに関わる事業を運営しているが、若い世代に向けてもっと発信して関心を持ってもらい、講座等の参加者を増やすことが大きな課題である。
- ・男女共同参画センターは名前から敷居が高く、生活に直結している感覚が薄かったが、子どもを産んで子育て支援等の活動に関わるようになり、センターと繋がりを感じるようになった。実生活に関連する繋がりを見つけることで、センターの重要性を認識しやすくなる。
- ・アイレックに関わる活動について、関心が高い保護者ばかりではないため、保護者向けの学びの講座など、その必要性を伝えるのが難しい。
- ・当初の活動方針を少し変えるなど試行錯誤を続けながら長く活動していると、何かのきっかけでこれまで関心がなかった方も話を聞いてみたいと思うタイミングがあるので、身近な場所で活動を続けていくことが効果的である。

2 アイレック 30周年記念行事について

◆基本的な方針（案）

【10年後の男女共同参画社会をともに作る】

- ・過去を振り返るだけでなく、これからの10年について考える機会にする
- ・次世代（子どもや若者）が主体的に参加できるようにする

◆記念行事事業（案）

- ①男女共同参画白書 ②アイレックロゴ ③男女共同参画推進ポスターコンクール 等

◆清瀬市男女共同参画白書について

○委員からの意見

- ・市町村のジェンダーギャップ指数は、データの偏りやバイアスを避けるため、何を焦点に当てているのかを明確にし、統計的に信頼できる国勢調査を基に、テーマ別に男女比データ等を深掘りしていくべきである。
- ・市町村のジェンダーギャップ指数という言葉が独り歩きして誤解される恐れがあるため、女性の市議や管理職、市内事業所や農業分野といった身近なテーマを決めて、それに焦点を当てることが望ましい。

・東京 26 市の中で同じ分野に分けて清瀬はどのくらいの位置にあるかという比べ方はできる。身近なところのテーマを何個か決めて、清瀬市はどれくらいの位置にあるかと比べてみるのが良い。

・ジェンダーギャップの問題について、どこに焦点を絞るかに議論が必要になっていくと思う。白書作成は 30 周年事業にふさわしい取組であるが、だからこそデータの信ぴょう性があるものにしたい。

・色々なデータを掲載して、市民がいろいろな取組に活用できる内容にすることで、白書をベースにして未来のアイレックがどうあるべきか、どのように働きかけるべきかの基礎になっていければ良い。

◆30 周年記念行事の今後の進め方について

30 周年記念行事を実施するにあたって、昨年意見の伺った方々と運営委員 1～2 名を加えたメンバーでどのような事業を実施するか検討し、運営委員会に提案をして実施したい。

また、上記検討結果については、運営委員会を開催して検討した内容を議論するか、メール等を活用して内容を承認するかは、運営委員が提案された内容によって判断することとなった。